

2004 年度 委員会活動成果報告

(2005 年 4 月 15 日作成)

委員会名	収縮ひび割れ研究小委員会	主 査 名： 三橋博三
所属本委員会 (所属運営委員会)	材料施工委員会 (RC 工事運営委員会)	委員長名： 嵩 英雄
設 置 期 間	2004 年 4 月 ～ 2005 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画	建築基準法の性能規定化および住宅の品質保証の法制化の中で、コンクリートに生じる収縮ひび割れ対策のための性能設計と仕様設計の考え方を明らかにし、現行の指針を改定する。	
委員構成 (委員名 (所属))	三橋博三 (東北大), 名和豊春 (北大), 野口貴文 (東大), 佐藤嘉昭 (大分大), 大野義照 (大阪大), 池永博威 (千葉工大), 今本啓一 (足利工大), 中村成春 (宇都宮大), 寺西浩治 (名城大), 丸山一平 (広島大), 兼松学 (東大), 橋田浩 (清水建設), 閑田徹志 (鹿島建設), 黒岩秀介 (大成建設), 小柳光生 (大林組), 井上和政 (竹中工務店), 谷村充 (太平洋セメント), 五味秀明 (電化工業), 鈴木澄江 (建材試験センター), 平松和嗣 (NTTファシリティーズ), 荒井正直 (日本建築総合試験所), 西川忠 (コンステック)	
設置 WG (WG 名 : 目的)	性能規定WG : 性能設計について研究し、指針本文(案)をまとめた。 仕様規定WG : 仕様設計について研究し、指針本文(案)をまとめた。	
2004 年度予算	250,000 円	

項 目	自己評価
委員会活動状況 (開催日・参加人数)	旅費がほとんど支給できない中で、2ヶ月に1回程度のペースで会議を持ち、指針(案)の本文を作成した。引続き本委員会等の査読結果に対応して修正するとともに、解説文の作成を進めている。
得られた成果	(成果の具体的内容、成果の学術的・技術的・社会的価値、ホームページ等での公開の有無) 本文8章と6つの付録からなる「鉄筋コンクリート造建築物の収縮ひび割れ制御設計・施工指針(案)・同解説」の本文を作成し、それに合わせて解説文を作成中である。2005年9月には脱稿し、2006年1月には出版の予定である。 従来の仕様規定型設計・施工の内容に加えて、性能規定型設計も加わり、より学術的な知見も盛り込まれている。
	委員会 HP アドレス： なし
目標の達成度	(当初の活動計画と得られた成果との関係) 当初の計画よりも若干遅れ気味であるが、ほぼ予定の成果が得られている。
その他評価すべき事項	特になし